

4 愛防第 15 号
令和 4 年 5 月 31 日

各関係機関・団体長 殿

愛媛県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の送付について
病虫害発生予察注意報（第 1 号）を下記のとおり発表したの送付いたします。

令和 4 年度 病虫害発生予察注意報（第 1 号）

令和 4 年 5 月 31 日

愛 媛 県

病虫害名 かいよう病
作物 かんきつ類（伊予柑、甘平、はれひめ等罹病性品種）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- ア) 伊予柑および甘平での越冬病斑量（2月調査）は、両品種とも多であった。
- イ) 5月中旬の定点調査における春葉の発病葉率・発病度は、ともに平年に比べて高く、特に東中予地域では高い傾向であった（表 1）。
- ウ) 5月 26 日発表の 1 か月予報（高松地方气象台）では、降水量は平年並か多いとされており、発生にやや助長的であり、今後の降雨や強風等でさらに発生が拡大すると予想される。

4 防除上の注意

- ア) 旧葉の発病葉は、病原菌の密度抑制のため、除去に努める。
- イ) 強風による付傷やミカンハモグリガの食害痕は発病助長に直結するので、防風垣や防風ネットを整備するとともに、ミカンハモグリガの防除を徹底する（県防除指針 P.107 参照）。
- ウ) 梅雨時期の連続降雨は発生を助長するので薬剤散布に努める（表 2）。薬剤散布にあたっては、高温時の散布は薬害発生の恐れがあるので注意する。
- エ) 散布液の霧を細かくして散布し、薬液が葉から滴り落ちるほどには散布しない。



写真 1 葉の発病（品種：はれひめ）



写真 2 葉の発病（品種：伊予柑）

表1 かんきつかいよう病の発生調査結果(5月中旬調査)

地域	調査園地数	発病葉率(%)		発病度	
		R4	平年	R4	平年
東予	7	2.26	0.00	0.55	0.00
中予	10	1.42	0.04	0.35	0.03
南予	14	0.06	0.16	0.01	0.04
県全体	31	0.99	0.09	0.24	0.02

1)調査対象品種:伊予柑、甘平、はれひめ、愛媛果試第28号、せとか、夏柑、温州みかん

2)平年:H24~R3の平均値

表2 かんきつかいよう病に対する防除薬剤

薬剤名	濃度	使用時期/使用回数	備考
ICボルドー66D	200倍	—/—	マシン油との近接散布葉害注意 (14日程度空ける)
コサイド3000	2,000倍	生育期/—	} 葉害軽減のため炭酸カルシウム剤 (200倍)加用
ムッシュボルドーDF	1,000倍	—/—	
クプロシールド	2,000倍	—/—	
マイコシールド	1,000倍	収穫30日前まで/2回以内	

1)薬剤は、令和4年度愛媛県農作物等病害虫防除指針より抜粋